

長期ステロイド使用と入院治療後に皮膚の強さが変化した成人アトピーの経過 (37 歳 成人)

症例 ID：001-30-KM12 | 記録日：2018 年 5 月 6 日

1. 診断・治療前経過

12 歳頃に瞼のかゆみと湿疹が出始め、全身へ広がりました。中学、高校、専門学校期は複数の皮膚科でステロイド外用を続けました。

27 歳でステロイドを中止し、民間療法や入院治療を経験しましたが、皮膚症状は再燃を繰り返しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	中学期から成人期までステロイド外用薬を使用しました。
製品名	複数使用。詳細は不明です。
強度	不明です。
使用期間	12 歳頃から 27 歳頃まで長期に使用しました。
中止時期	27 歳頃です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
12 歳頃	発症	瞼のかゆみと湿疹が始まり、全身へ広がりました。
中学～専門学校期	外用治療	複数の皮膚科でステロイド外用を続けました。
27 歳頃	中止・民間療法	ステロイドを中止しましたが、顔の赤みと皮膚の崩れが続きました。
その後	入院治療	遠方の医療機関に入院し、一時的に皮膚が整う時期がありました。
松本医院受診後	治療開始	漢方入浴、煎じ薬、外用処置を続けました。
治療初期	症状の強い時期	皮膚が赤く、ごわごわし、掻くと出血しやすい状態となりました。
2018 年 5 月	経過中	かゆみと掻き傷は残るものの、以前より皮膚が丈夫になったと感じられました。

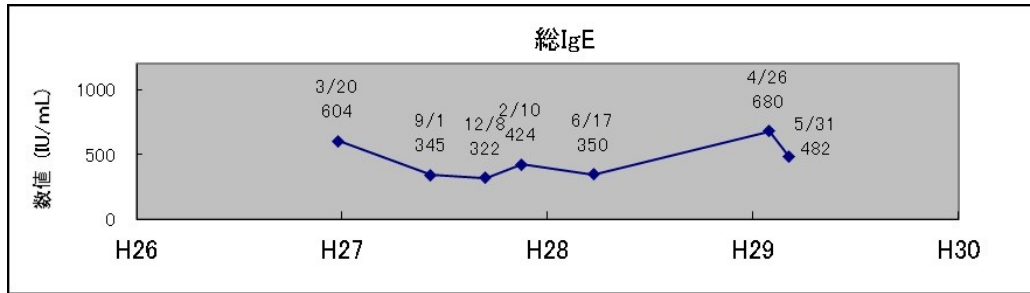
4. ピーク時期

ピークは、ステロイド中止後に顔が赤く皮膚が崩れた時期と、治療開始後に全身の皮膚が赤くごわごわした時期です。

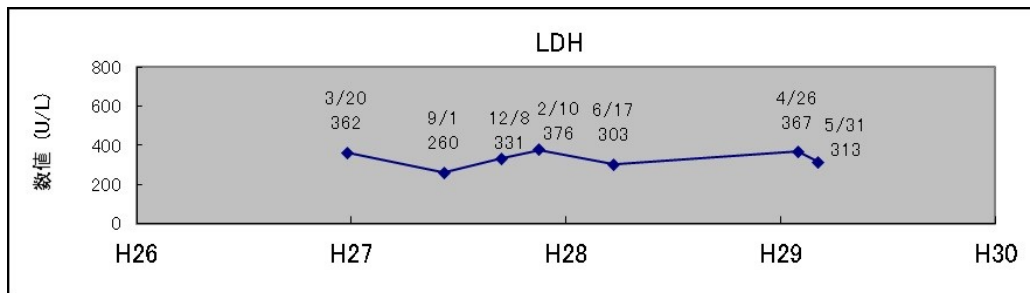
5. 困りごと

- 顔と全身の症状により、複数の医療機関と入院治療を経験しました。
- 掻くとすぐ出血するほど皮膚が脆い時期がありました。
- 記録時点でもかゆみと掻き傷が続いていました。

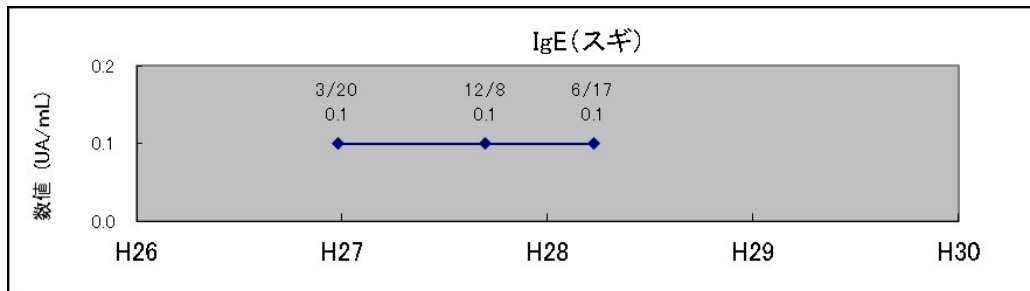
6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



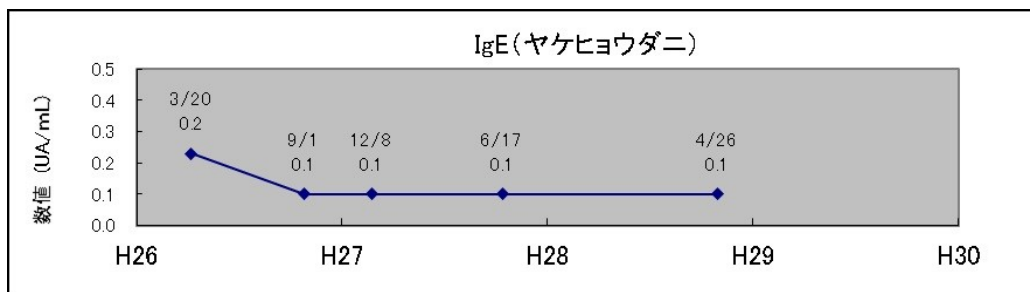
経過中の検査値の推移。



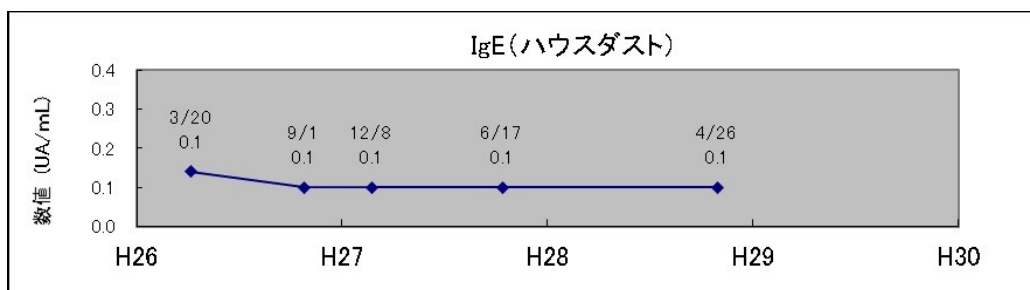
経過中の検査値の推移。



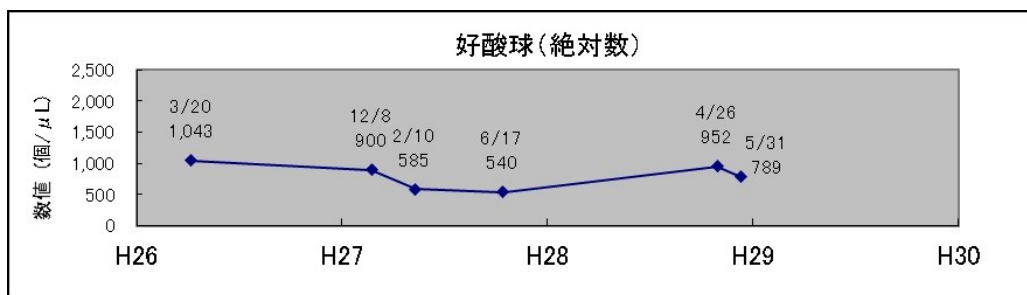
経過中の検査値の推移。



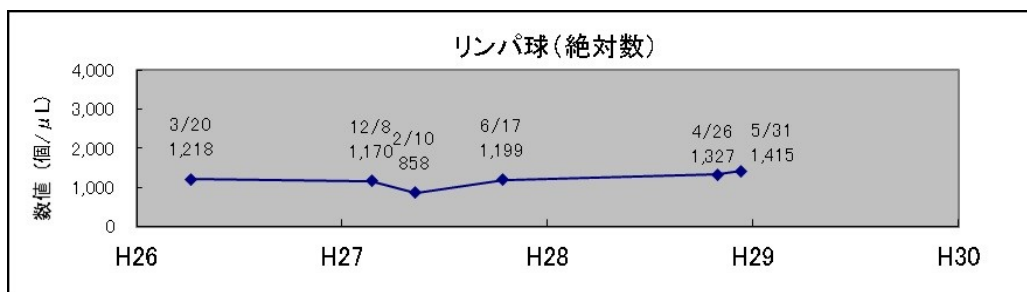
経過中の検査値の推移。



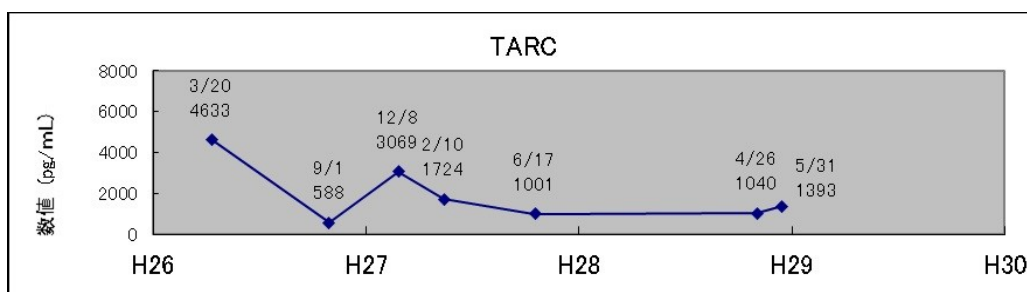
経過中の検査値の推移。



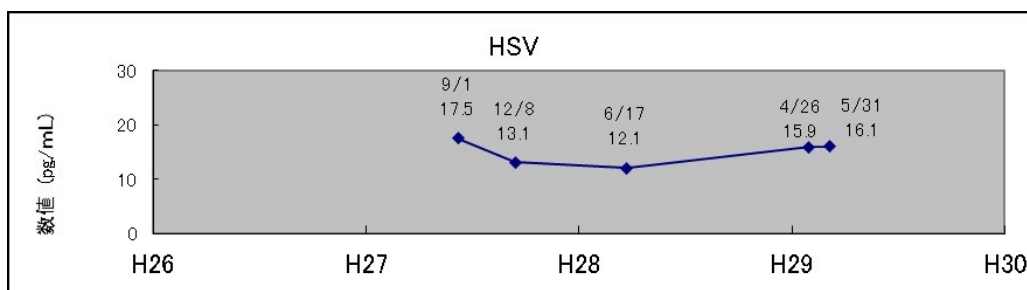
経過中の検査値の推移。



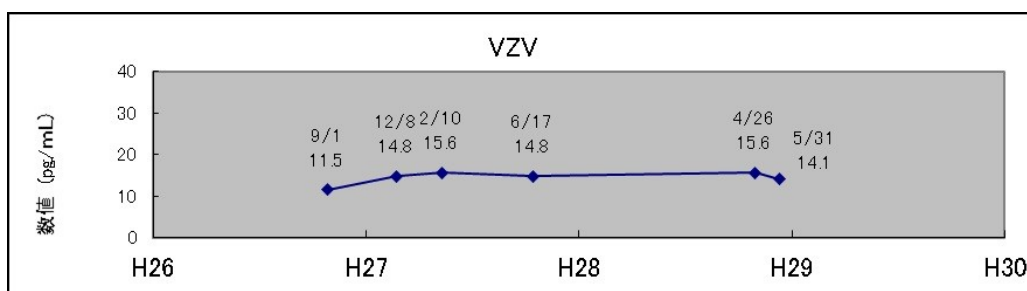
経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。



経過中の検査値の推移。

7. 経過のまとめ

治療開始時の出血しやすい皮膚や、赤くごわごわした状態と比べて、2018年5月時点では皮膚が丈夫になったと感じられる変化がありました。かゆみと掻き傷は残っており、治療を継続していましたが、通院を経て日常生活の負担が軽減された症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。